

## 欧米の身体教育の日本への紹介資料.. —「體操術ノ世代」(明治一二年)の校注作成—

A historical material on the introduction of European and American physical Education in Early Modern Japan: The annotation of Japanese translation for “The Age of Gymnastics” (*taiso-jutsu no sedai*)

榊 原 浩 晃 (福岡教育大学教育学部)

Hiroaki SAKAKIBARA

Faculty of Education, Fukuoka University of Education

田 端 真 弓 (大分大学教育福祉科学部)

Mayumi TABATA

Faculty of Education and Welfare Science, Oita University

(平成二十五年九月二十七日受理)

### 一 「體操術ノ世代」原著者オスワルドと翻訳者大野金三郎

「體操術ノ世代」の原著者Felix Leopold Oswald (1845-1906, 以下「オスワルドとする」)は、ベルギー生まれの自然科学者であり、ドイツのゲッティンゲン大学やハイデルベルク大学でも学究を重ね、学術修士や医学博士の学位を取得していた。<sup>1)</sup>その後、オスワルドはアメリカに渡り地質や自然史に関心を持ち、*The Popular Science Monthly*に数多くの論文を寄稿している。<sup>2)</sup>オスワルドは人間の精神や身体に関しても関心を注ぎ、『身体教育』(*Physical Education*)と題する単行本も出版しており、<sup>3)</sup>その書の一八八三年版は明治期の官立体操伝習所の蔵書本にもなっていた。<sup>4)</sup>オスワルドが人間の身体に寄せる関心は、彼の雑誌寄稿の時期の中で初期にあたる一八七八年六月に発刊された*The Popular*

*Science Monthly*に所収の一篇のモノグラフ(論文)にも表われている。<sup>5)</sup>それが「體操術ノ世代」の原典である英語論文、“The Age of Gymnastics”であった。

一方、その論文翻訳者の大野金三郎(生年没年不詳)は明治九年創設期の東京大学法学部に入學し、明治一三年七月に同大を卒業している。<sup>6)</sup>オスワルドによる当該の英文論文“The Age of Gymnastics”を当時の和漢文によってほぼ全訳している。この英文論文の訳文は東京大学創設期の学術紀要とみなされる『學藝志林』の(第五卷)第二十九冊、四二六頁から四五一頁に掲載されている。

### 二 「體操術ノ世代」の資料紹介と校注作成のねらい

「體操術ノ世代」の翻訳刊行当時の日本は、欧米の身体教育やスポー

ツの移入期にあたる。明治初期にはそれらを一部紹介した書籍や記事は既にみられるものの、<sup>7)</sup>身体教育、とりわけ高等教育機関における体操の授業としての実施と奨励のなされていた当該時代（近代）に、東京大学で同論文が仮名交じりの和漢文で翻訳・紹介された意義は大きい。ことに古代ギリシアの時代の体操術と古代オリンピックをめぐる紹介内容は詳細であり、優勝者への葉冠授与や待遇などが仮名交じり和漢文で紹介された文献としてはその端緒に位置づくものではないかと推察される。<sup>8)</sup>さらに、欧米の身体教育の日本への紹介資料として、古代やローマに回顧しつつ、欧米で盛んなスポーツやその競技会への人々の熱狂ぶりをオスワルドは批判的にとらえている。すなわち、オスワルドは競馬や闘鶏などギャンブル化した近代のスポーツ事情を問題視しており、近代の時代であっても体操に着目すべきであり、近い将来は体操による身体教育の時代でなければならないと警鐘を鳴らしている。<sup>9)</sup>そのことにも我々は資料価値を見出したい。

大野による翻訳内容は、ほぼ原典の英語論文と一致しており、およそ一〇項目の内容が紹介されてよいだろう。項目や小見出しのない翻訳文を、順を追って紹介すれば以下のようになる。

一、古代への回顧、二、古代人の日常的な体操と運動、三、古代とオリンピック、四、古代の集会所、施設、用いられている体操のツール、五、体操の身体的効果、六、古代人の長寿と達成、七、戦闘の勝敗を決定する体操の役割、八、体操の倫理と徳性の涵養、九、ローマ市民の日常的な体操、一〇、当該時代（近代）の社会状況と体操の未来である。

大野は大学卒業後、明治後期には神戸市内の公證人として石川彦太郎『日本紳士録』に名を連ねている。<sup>10)</sup> 翻訳された仮名交じり和漢文を解読する限りでは、法学部生でありながら当時の大野の英語理解と翻訳の

力量は極めて高かったと考えられるが、原典資料からみると翻訳文が一部省略された箇所がみうけられる。人名、地名などの固有名詞は漢字表記されているが、英文の音韻に近い片仮名で表記している部分も随所にある。当時、欧文による体操やそれに関連する用語をいかなる漢字や和文で表現したかという点を吟味すると興味深い。それだけに校注作成は資料解釈に不可欠な作業となる。翻訳文全体を、順を追って精査し、現代文として読み解く努力が我々には求められる。そのために校注作成は明治初期の資料解読の際の前提作業となり、この種の資料精読に欠かせない。

#### 【註及び引用・参考文献】

- 1) anonym, *Who Was Who in America*, Volume I 1897-1942, 1968, Marquis Publication Building, Chicago, p.923; John Foster Kirk, 1891, *A Supplement to Allibone's Critical Dictionary of English Literature and British and American Authors*, volume II, J.B. Lippincott Company: London, p.1199; J.M. Wheeler, et al, 1889, *A Biographical Dictionary of Free thinkers of All Ages and Nations*, Progressive Publishing Company, London, p.243.
- 2) *The Popular Science Monthly* 第7号 アメリカのアップルトン社 (Appleton and Company: New York) 発行の月刊誌。
- 3) F. L. Oswald (1882), *Physical Education; Or, the Health-Laws of Nature*, New York
- 4) 阿部生雄ほか、資料：体操伝習所旧蔵書文献目録に関する調査研究「西洋書」を中心に、『筑波大学体育科学系紀要』三三二巻、一一三―

- 5) F. L. Oswald, "The Age of Gymnastics", *The Popular Science Monthly*, Vol.13-9, June, 1878, D.Appleton and Company: New York, pp.129-139.
- 6) 『東京大学卒業生名簿』、明治一三年七月卒業。
- 7) 例として、福澤諭吉『西洋事情』(外編)慶応二年、明治元年、スマイルズ、中村正直訳。『西國立志編』(明治四年)などに、運動やスポーツの紹介が既にみられる。
- 8) 大野金三郎、『體操術ノ世代』、東京大學法理文學部編、『學藝志林』(第五卷)第二九冊、明治一二年、四〇三―四三一頁。
- 9) 同 四五〇―四五二頁。
- 10) 石川彦太編、『日本紳士録 序拾貳版』、明治四一年、交詢社蔵版、二六頁及び、日本公証人連合会、『公証制度百年史』別冊(資料編)、昭和六三年、立花書房、三〇四―三〇五頁。

### 三 「體操術ノ世代」の資料と校注作成

#### 〔凡 例〕

- 引用については、次の凡例にしたがった。
- ・旧字体はそのまま記載し、合字はすべて片仮名で表記した。
  - ・つづれ等によって文字の解読ができなかった場合は当該文字を□として表記した。
  - ・難読語については、校注欄の( ) 内に読み方を記し、続けてその意味を示した。
  - ・踊り字については「々」に統一して表記した。
  - ・資料のページを示すために、引用文中のページ末に漢数字でページ数

を書き加え、改行も当該資料にしたがっている。

・校注における欧文の引用は、すべてF. L. Oswaldの“The Age of Gymnastics”, *The Popular Science Monthly*に依拠している。

#### 〔校 注〕

體操術ノ世代

ドクトルオスワルド氏 著

法學第四年生 大野金三郎譯

右ノ希臘<sup>校注1)</sup>國民ヨリ吾人<sup>校注2)</sup>ハ何ナル賜ヲ傳ヘ得タルトイフ問題ハ

客歲<sup>校注3)</sup>伊

國フローレンス府<sup>校注4)</sup>ノ技術學校ニ於テ其學生ヲ勸奨センカ爲メ與ヘ

シ

所ノ訓規ナルガ實ニ是レ紀元千九百年代ノ形勢ヲ回顧セシムヘキ良

論ナリ嗚呼事ヲ執ル精詳ニシテ志望ノ高大ナルハ吾人果シテ歴山

王<sup>校注5)</sup>

前ノ希臘國民ト相比肩ス可キカ豈亦希臘ノ國民カ吾人ニ□絶<sup>校注6)</sup>セサルノ

點ハ如何ナル處ニ於テ求メラルヘキカトハ實ニラベルト、ピントル

校注1) ギリシア

校注2) 我々

校注3) 昨年

校注4) Florentine, フイレンツェ

校注5) Alexandrian, アレクサンドリア大王の

校注6) 部首なども含めて解説不可

氏校注7)

四二六

□陳セル語ニシテ思フニ此問題タノ同氏ノ意素ト唯技術上ノミニ就  
テ云ヘルナルヘケレトモ其實之ヲ汎ク萬事ニ適用スルモ希臘國民ハ一  
トシテ吾人ニ卓越セサルモノ無カルヘシ加之近世人智ノ進歩ヲ我カ  
新教校注8)ノ感化ニ歸スルノ説モ畢竟吾人ノ臆斷校注9)ニ出ツルヲ免レス  
何ヲ以

テ謂フ曰ク形而上ニ關スル學問ニ於テ我輩信シテ最新最善ト認識ス  
ル意見ハ皆早ニ古教校注10)奉者ノ希臘人民カ先言セシ所ナレハナリ且夫  
レ

形而下ノ學問ニ至テモ熟々之ヲ往古ノ希臘人ニ比スルニ其偶然ノ發明  
並ニ古來經驗ノ功ニ成レル結果ヲ除クノ外ハ亦總テ今人ノ自ラ許シ  
テ秀絶校注11)ト恃ム所ノ却テ悉ク迂拙校注12)ニシテ大ニ古人ニ及ハサルヲ  
悟ルア

ラン夫レコレヲ思ヘハ我等ノ將來二期スル所ノ至治校注13)至隆モ畢竟コ  
ノ

二千四百年前ニ地中海彈丸ノ半島内ニ文明ノ原點ヲ占得セシ古教人  
氏ノ範圍外ニ出ツル能ハサルヲ憂フルナリ思フテ茲ニ至レハ實ニ吾  
人ハ今ヨリ益々身體精神ヲ練磨修改スルコト緊要タルニ留意セサルヘ

校注7) L'Abbate Pintore

校注8) the "revealed light" of out religion, 啓示宗教をさすと考えられる。

校注9) 推量

校注10) Nature-taught heathens, 自然宗教、すなわち古代ギリシア人が多神教  
であったことを説明しようとしているとみられる。

校注11) 特にすぐれていること

校注12) (うせつ)、おろかですまいこと

校注13) (しち)、天下がよくおさまること

カラス夫レ壓制、獨裁、撰君、立憲ノ諸政體等無數治術ノ經驗ノ後當  
十九

四二七

回期ニ於テ最モ開明ノ諸國民等カ判決シテ以テ定ムル全權名代者政  
治ハ果シテ何ニ淵源ストスル是亦希臘當時ノ賜ニアラスヤ加之希臘  
都府人民カ當時ニ於ケル武備ハ以テ今日ノ常備兵ト相遠カラス其投  
票ノ多數ニ因テ公職ヲ撰免スル當時ノ方法ハ仍ホ校注14)奮轍ヲ守ル今日  
ノ

回々校注15)基督宗國帝ノ獨斷擅横ニ勝ルコト萬々ナリ若シ夫レ宗教自由  
ハ中

世以來ノ經驗上進取黨カ熱心ニ得ント欲シテ猶未タ吾人ノ全ク得サ  
ル所ナルニ往古ノ希臘羅馬校注16)共和國ニ於テハ其自由夙ニ充分言語貿  
易

家事ノ廣點ニマテ行ハレシナリ況ンヤ教育ノ良制美術ノ精蘊校注17)ニ至  
テ

ハ吾人ノ遠ク及ハサル所ニシテ今コノ隆ヲ古二期セント欲セハ必先  
ツ現時ノ僻説校注18)陋見校注19)ヲ洗滌セサレハ能ハサルベシ蓋シ民生進福  
ノ論ニ

於テハ古ヲ講セサルコト久シク因テコ、ニ遽ニ輓近校注20)ノ習ヲ破ラン

校注14) (なお)、やはり

校注15) 回々教 (ういういきょう)、イスラム教の異称

校注16) ローマ

校注17) 「蘊」(うん)、たくわえる

校注18) (へきせつ)、かたよった意見・道理にあわない説

校注19) (ろうけん)、狭い見解

校注20) (ばんきん)、近ごろ

コト殆

ント難カルヘシト雖我輩ノコレニ拘牽<sup>校注21)</sup>セラレス殊ニ急務トシテ採  
ラ 四二八

ントスル所ハ久ク度外視シタル希臘ノ古教育法ノ中特ニ體操術ニ在  
リト爲スナリ蓋シ該術タル嘗テ大ニ希臘國民ノ精神體質ヲ發育シテ  
遂ニ一代ノ勇士政治者理學者等ヲ陶成セシ所ノモノニシテ實ニ其時  
代ニ在テ著ル風俗ニ影響セルモノト爲サ、ル可カラス

抑々野蠻ノ時代ニ在テハ人民其生業ヲ營ムニ曠野<sup>校注22)</sup>ニ驅馳シテ自然  
身體

ヲ運動セシモ漸次開明ノ域ニ躋リ<sup>校注23)</sup>生計ノ模様隨テ更革スルニ迫ン  
テ<sup>校注24)</sup>ハ偏ニ心ヲ勞スルノ一方ニ移テ身體ヲ使用スルノ機會ヲ得ル  
愈々稀

少トナルカ故ニ法則ヲ設ケ體操ニ從事セシメサルヘカラストハ古時  
歐洲南部且小亞細亞ニ居住セシ希臘人カ夙ニ認識スル所ニシテ實ニ  
素倫氏ハ之カ説ヲ爲シテ曰ク立法ノ權ハ以テ驕奢ヲ禁制スル能ハザ  
レトモ強壯爭遊ノ舉<sup>校注25)</sup>ハ以テ奢靡ノ弊ヲ塞クニ足ラン蓋斯ノ舉ハ人  
ノ身

體ヲ壯強ニシテ少年輩<sup>校注26)</sup>ヲシテ遊情ヲ變シテ豪勇ノ氣象ヲ養ハシム  
ヘ

校注21) (こうけん)、かわる

校注22) (あら)、荒野

校注23) のぼり

校注24) およんで

校注25) 行動、ふるまい

校注26) 少年達

ケレハナリト云ヘリ勿論古ノ甲冑ハ其質太タ重クシテ之ヲ使用セン

ニハ必ス異常ノ體力ヲ要セサルヘカラスルヲ以テ身體ヲ強剛ニスル

ハ當時希臘國民ノ一般ニ尚フ<sup>校注27)</sup>所ナリシト雖體操ノ本旨ハ敢テ必ス  
シ

モ戰鬪ノ爲メニセシノミニ非サルナリ去レハ希臘古哲ライカーガ  
ス<sup>校注28)</sup>

ノ法律ニモ男女ニ充分ナル體操教育<sup>校注29)</sup>ヲ與ヘン爲メニ自由操練學  
校<sup>校注30)</sup>ヲ

設備スヘキノミナラス若シ女子ニシテ定期ノ體操術式<sup>校注31)</sup>ヲ卒業セル  
免

許ヲ得サルモノハ婚姻ヲ爲サシムヘカラスト其父母ニ警戒スヘキ旨  
ヲ載セリ又其當時醫師ハ諸病ヲ治療スルニ必先ツ數種ノ體健遊戲<sup>校注32)</sup>

ニ

係ル式序<sup>校注33)</sup>ヲ履行ス可キヲ命シ且ツ一種奇特ノ競走體操場<sup>校注34)</sup>ヲ創  
置セリ

校注27) (こうけん)

校注28) 原文ではLycurgus, リュクルゴス

校注29) 原文ではphysical education

校注30) 原文ではfree training-schools

校注31) 原文ではcertain exercises, 原文には「我々がキャリセニクスと呼ぶもの  
より人氣がなく、飾り氣のないもの」との修飾が付されている。

校注32) 原文ではathletic sports

校注33) 体操のプログラムのようものをさすと考えられる。

校注34) 原文ではa special curriculum of gymnasticsとあり、原文では特定の体  
操カリキュラムを設置したと読めるが、本文からは特殊な体操場を設  
置したとれる。したがって誤訳とみられる。

實ニ斯ノ競走術タル會テイリヤン<sup>校注35)</sup>氏ノ証定セル如ク過度ニ肥滿ノ人

身ヲ輕健ニスルニ偉功ヲ奏スヘキハ疑ヲ容レサルナリ然ルニ希臘全

國益々殷富ト爲リ人智彌々開進スルニ隨テ人民ノ豪志健質漸ク<sup>校注36)</sup>尫

弱<sup>校注37)</sup>ニ

陷ラントスルヲ以テ該政府ハ大ニ之ヲ憂ヒ乃チ直ニ體術教育ノ設立

ヲ各都府ニ實施シ其人民ニ勸奨シテ愈々其業ヲ盛ニセリ就中アセン

ス<sup>校注38)</sup>

四三〇

シイブス<sup>校注39)</sup>コリンス<sup>校注40)</sup>ノ諸邑ニ於テハ當代有名ノ政治學者等自ラ

首唱シ

角力場<sup>校注41)</sup>、競走場<sup>校注42)</sup>、體操場<sup>校注43)</sup>ヲ設置シ汲々<sup>校注44)</sup>トシテ該教

育ヲ全國ニ普行セシメ

ンニ黽勉<sup>校注45)</sup>シ大ニスパーク<sup>校注46)</sup>府ノ立法者ト爭先賽勝<sup>校注47)</sup>セリ即

チアセンス府

校注35) 原文ではAelian, すなわちClaudius Aelianusで、二世紀ローマの著述家。

校注36) (やうやく)

校注37) (おうじゃく)、かよいこと

校注38) Athens、アテネ

校注39) Thebes、テーベ

校注40) Corinth、コリント

校注41) palaestrae、パライストラ

校注42) international race-courses

校注43) gymnasium

校注44) (きゆうきゆう)、氣を緩めず続けるさま

校注45) (びんべん)、つとめはげむこと

校注46) Sparta、スパルタ

校注47) (やうせん)

ノ近郊ニアルオリンピア<sup>校注48)</sup>コリンスニミヤ<sup>校注49)</sup>デヲニシヤ<sup>校注50)</sup>ノ四所ハ舉國

大競遊ヲ執行セシ上時ノ競闘場ニシテコノ大競遊ノ期ニ際スレハ遍ク

歐、亞所領ノ大陸ヨリ此ニ集合シ各一世ノ力ヲ奮テ勝負ヲ試ミシナ

リ蓋シ其期ハ六月ト四年ト交互ニ執行サレシモノニテ殊ニ四年期ノ

大競遊ニ至テハ所謂有名ノオリンピアゲーム<sup>校注51)</sup>ニテ太古年記ノ大段

ヲ示スニ足ル者ナリ實ニ其競闘シテ勝ヲ得ル者ニ稠人<sup>校注52)</sup>廣衆ノ盛場ニ

於

テ文飾冕旒<sup>校注53)</sup>ヲ加フルノ榮ハ此ノ好譽人種ニ向テ競闘ヲ勸ムル無

比<sup>校注54)</sup>ノ

賜ト爲ス加之其他夥多ノ褒賞ハ少年壯丁輩ヲシテ奮<sup>校注55)</sup>延頸シテ體

操ヲ

冀望<sup>校注56)</sup>セシメ以テ驚ク可キ爭勝ノ熱心<sup>校注57)</sup>ヲ鼓舞増進セシナリ去レ

校注48) Olympia

校注49) Nemea

校注50) Dionysian

校注51) Olympic games

校注52) (しゅうじん)、「稠」は多いという意味を持つ、したがって多くの人を示すとみられる。

校注53) (べんりゅう)、「冕」はかんむりという意味を持つ。「冕旒」とは冕の前に垂れさげる飾りの玉のこと。

校注54) 無二と同意語

校注55) 「曄」は、はくと読み、さける、おやゆびという意味を持つ。ここでは親指を意味していると考えられる。

校注56) 希望と同意語

校注57) 「爭勝ノ熱心」にひびく the ardor of gymnastic emulation

ハイ

スミヤ<sup>校注58)</sup> ニミヤノ競遊得勝者ハ納税ノ務ヲ免レ殊ニ其生誕セル邑ノ神

四三一

像ト仰カレ其一代ノ浮沈羸老<sup>校注59)</sup>ヲ保護セン爲メ公衆ヨリ之二年金ヲ給

シ且國民ノ榮爵中特ニ自便免許租税公役等ノ總權ヲ付セリ嘗テアグリセ  
ンタム<sup>校注60)</sup> 府ノ一小民エゼ子タス<sup>校注61)</sup>ハ希臘第九十二回期<sup>校注62)</sup>ノオリ  
ンピヤゲー

ムニ於テ争鬪五度ノ中其三度ノ勝ヲ占メテ三賞ヲ得タリシカハ群觀  
者感激ノ情ニ禁ヘス未タエゼ子タスノ場ヲ出テサルニ先ツ皆争フテ  
之ヲ環圍シ華美<sup>校注63)</sup>ノ纏頭<sup>校注64)</sup>ヲ爲シ以テ其大勝ヲ祝賀セリ是ニ  
於テカ

前日マテ赤貧<sup>校注65)</sup> 洗フカ如キエゼ子タスモ一變シテ暴力ニ<sup>校注66)</sup> 王侯ノ  
富ヲ享<sup>マ</sup>

有シ既ニシテ其場ヨリアグリセンタム府ニ歸ルニ際シテハ該府ヨリ

校注58) Isthmian

校注59) (るいろいろ)、老い衰えること

校注60) Agrigentum

校注61) Egenetus、「エゼ子タス」、すなわち「エゼネタス」

校注62) the ninety-second Olympiad. 第92回の「オリンピヤゲーム」

校注63) 偏の部分に「火」、旁の部分に「旬」の文字を持つ文字。意味としては  
絢爛に同じ。

校注64) (てんとう)

校注65) (せきひん)

校注66) (にわかに)

戰車三百輛ヲ出シ各白馬二頭ニ引カシメ齊整<sup>校注67)</sup> 揚々<sup>校注68)</sup> トシテ  
隣々<sup>校注69)</sup> ノ聲ト

共ニエゼ子タスヲ奉送セリ是ヲ以テ當時如何ナル家國ノ葛藤争訌ニ  
テモ四十八箇月ヲ歷テオリンピヤゲームノ時期ニ近ツケハ必ス停止

セサルヲ得ス且敵國囚徒、國事犯者タルモ此競遊ニ勝ヲ得テ至榮ノ桂  
冠<sup>校注70)</sup>ヲ博取セント熱望スル者ハ直ニ其言ヲ聽テ放赦<sup>校注71)</sup>セラレシナ  
リ其故

四三二

ヲ推スニ當時ノ俗斯ノ如キ特殊ノ名譽ヲ得ヘキ機會ヲ剥奪スルハ却  
テ政事上ノ犯罪ヨリ一層過重ノ罪ト認識セラレタレハナリ

抑希臘人カオリンピヤゲームニ於テ得勝ヲ至榮トセル状ハ又ダヤゴ  
ラスノ事跡ニ就テ之ヲ瞭地スヘシダヤゴラス<sup>校注72)</sup>ハ羅德島<sup>校注73)</sup>ノ住  
民<sup>校注74)</sup>ニテ壯

年ノ時二名ヲ得タル豪勇ノ争鬪者ナリシカ老後其二子ノ希臘第六十  
一回期ノ該競遊ニ於テ試鬪シ遂ニ全勝ヲ得テ五賞<sup>校注74)</sup>ヲ取リシ時ニハ  
二

校注67) きちんとしていること

校注68) 「揚」はてき、ちやくと読み、かかげるなどの意味を持つ。

校注69) (りんりん)、車とどろく音

校注70) 原文ではthe laurel wreath of any championshipである。

校注71) 「釈放」を意味すると考えられる。

校注72) Diagoras

校注73) ロードス島の住民、Rhodian

校注74) won the entire pentathlon. 五種競技における全ての種目で勝利したこ  
とを意味すると考えられる。古代オリンピックにおける五種競技は、短  
距離走、走幅跳、円盤投、やり投、レスリングであった(日本体育学会

編、『最新スポーツ科学事典』、平凡社、2006年)。

子自ラ欣躍<sup>校注75)</sup>ニ禁ヘス直ニ傍觀セル其父ダヤゴラシヲ抱キ舉ケ負擔シ

テ競遊場ヲ緩歩セシニ數萬ノ觀者一度ニ喝采シテ其聲山嶽ヲ震動シ殆ントセリীগ我九里三十一丁餘ヲ隔ツルパトリエ港<sup>校注76)</sup>ニマデ波響セリ然ルニダ

ヤゴラスハ報道者カ大聲ヲ以テ勝者ノ姓名ヲ宣告セシヲ聞クト齊ク<sup>校注77)</sup>

至喜ノ極直ニ死去セシカハ此等ノ歡聲ハ聞カサリシナランピンダー

ル<sup>校注78)</sup>氏曰ク是實ニ神明カダヤゴラスノ終期ニ最モ満足幸福ノ時ニ見ル

可キ好運ヲ付與シタルナリト信ニ然リトス蓋シ爭鬪者ニシテオリン

#### 四三三

ピヤゲームノ期ニ於テ一以上ノ褒賞ヲ得ルトキハ其生國ニ於テハ必

ス當代巧手ノ彫工師ニ命シテ其肖像ヲ作爲シ乃チ建設シテ不朽ニ垂

レ歳時ニ祝祭セシナリ洵ニ<sup>校注79)</sup>盛ナリト云フヘシ即チエリス<sup>校注80)</sup>ノ靈

山中喬

木<sup>校注81)</sup>千章ノ間無數ノ彫像肅々トシテ列立シ其他隱然タル丘陵茫々タ

ル

校注75) (きんやく)、よろこんでこおどりすること

校注76) Patrae

校注77) (ひとしく)

校注78) Pindar, ピンダロスをやすとみられる。

校注79) (かみ)とこ)

校注80) Elis

校注81) (ちやうぼく)

原野ノ間隨處ニジユピトル、オリンピヤノ宮殿<sup>校注82)</sup>カリクレーツ<sup>校注83)</sup>ノ神廟<sup>校注84)</sup> 古代

工術ノ巧妙ヲ遺シテ森立シ輪奐<sup>校注85)</sup>ノ美醜々々<sup>校注86)</sup>ノ壯誠ニ古代英勇不朽ノ靈

カ猶此ニ存スルノ憶アラシム

夫レ當時操兵場<sup>校注87)</sup>、公共體操場<sup>校注88)</sup>ノ設置ハ各村邑ニ徧ク<sup>校注89)</sup>シテ凡ソ遊戲ノ器

具<sup>校注90)</sup>ハ往々公共浴室諸講堂ニモ備ヘラレシナリ加之大都邑<sup>校注91)</sup>ニ於テハ人

民互ニ會社ヲ結ヒ其術ヲ研究シ各相磨勵メ他ニ超越センコトヲ競ヒ角

力<sup>校注92)</sup>、投鎗<sup>校注93)</sup>、競走<sup>校注94)</sup>、跳越<sup>校注95)</sup>、投環<sup>校注96)</sup>、駢騎<sup>校注97)</sup>、驅

校注82) the temple of Jupiter Olympus

校注83) Callicrates, 建築家カリクラテス

校注84) Pantheon

校注85) (りんかん)、廣大、壯麗なこと

校注86) (たか)、高くて大きい

校注87) the military drill-grounds

校注88) the public gymnasium

校注89) (あまねく)

校注90) the complete apparatus for all possible sports

校注91) (ふかふか)、繁華な街のこと

校注92) Wrestling

校注93) javelin-throwing

校注94) running

校注95) leaping

校注96) pitching the quoit

校注97) riding



馳<sup>校注98)</sup>、攀繩<sup>校注99)</sup>、射擊<sup>校注100)</sup>等ノ諸術ハ其嗜好ニ隨テ專ラ  
之ヲ練習シ而テ此等ノ諸會社<sup>校注101)</sup>ニハ通例競走場<sup>校注102)</sup>講堂<sup>校注103)</sup>ヲ有  
セサルナカリ

キ是ニ由テ之ヲ觀レハ往古希臘人カ旺盛ノ精神體質<sup>校注104)</sup>ヲ具シテ當代  
ニ 四三四

大業ヲ遂成セシハ明カニ以上種々ノ體操術ニ原因スト爲サ、ルヲ得  
ス即チ約シテ云ヘハ其健康コソ眞ノ原質トナリテ希臘ノ盛代ヲ造出  
シタレト云ハン蓋シ健康<sup>校注105)</sup>ト強壯<sup>校注106)</sup>トハ異語同義ノミ

夫レ運動ノ益タル身體ノ強壯ト共ニ百病ノ根ヲ絶チ凡全體機關ニ胚  
胎スル羸老<sup>校注107)</sup>ヲ促スノ害ハ未タ崩セサルニ驅除ス是レ吾人ノ常ニ荒  
野

ニ生育走馳スル動物ノ筋骨ノ特ニ強健ナルヲ察シテ其然ルヲ曉ルナ  
リ而シテ其夭死<sup>校注108)</sup>スルハ負傷ヨリ起ルニ非レハ必ス比年ノ飢饉<sup>校注109)</sup>  
ニ因ルト

校注98) driving  
校注99) climbing ropes  
校注100) shooting the arrow  
校注101) many amateur clubs  
校注102) a race-course  
校注103) a private hall  
校注104) mental and physical health  
校注105) health  
校注106) vigor  
校注107) 校注59)参照  
校注108) 若死に同じ  
校注109) 毎年。原文はprotracted famineである。

ナスヘシ醫學博士ボアハーヴ<sup>校注110)</sup>氏曰ク力作勞動スル人民中ニ過食ヨ  
リ

胚胎セル疾患更ニ之レ無キハ其十中九ハ攀登伐木<sup>校注111)</sup>等ノ運動機  
法<sup>校注112)</sup>カ善

ク藥劑化學法<sup>校注113)</sup>ノ功ニ代ル確証ナリト蓋シ體操<sup>校注114)</sup>ハ體內血液ノ巡  
環ヲ迅

速ニシテヨク人間ノ命脈ヲ組織スル總機關ノ連合動作ヲ激勵壯旺ニス  
ルカ故ニ凡百ノ疾病ヲ防壓セサルナシ夫レ病ハ僅ニ機關一所ノ運用  
ヲ欠クモ直ニ心經精神ニ感及シテ大害ヲ來スヲ免レス豈慎マサルヘ

ケンヤ然而シテ勇敢驍武<sup>校注115)</sup>ヲ以テ名アル人民ハ古今其國ニ乏シカラ  
ス 四三五

ト雖モ身體ノ壯健<sup>校注116)</sup>ニ至テハ未タ會テ歷山王時代前ノ希臘國民ニ及  
フ

モノアラス是レゼノフオン<sup>校注117)</sup>ノ陸軍統計表ニ據テ明カニ証スル所ナ  
リア

校注110) Boerhave, プルーハーフェ (1668-1738), オランダの医学者。  
校注111) climbing a tree chopping it down  
校注112) mechanically  
校注113) chemically  
校注114) physical exercise  
校注115) (ボアハーヴ) 強く勇ましい人  
校注116) the physical superiority  
校注117) Xenophon

ナバシス校注 118ノ記者ノ載スル所ニ據ルニスパーク校注 119緩行隊ノ一兵士  
カ一身

ニ負擔スル軍装ノ全量ハ築營架橋等ノ用器並ニ毎週給セラル、麵包  
乾果等ノ軍糧ヲ除クノ外七十五ポンドニシテ歩兵ノ全量ハ九十或ハ

九十五ポンドヨリ百ポンド強ニ抵リ面シテ此重物ヲ負ヒ一時英校注 120法  
四

里ノ割合ニテ日二十二時間戰地ニ運搬セシナリ但シ西里亞南部校校注 121ノ  
酷

熱砂漠ヲ通過スル時ノミ其將官等殊ニ注意シテ進軍路程ノ四分一ヲ  
減給セリ抑々希臘招募官シベターカス 校注 122等カ新兵揀選校注 123ノ例規ト爲セル體操術

ノ試験校注 124ニ  
ハ其當時ニ於ル□裝隊校注 125ノ漫ニ校注 126軍服ヲ虚飾スルヨリモ一層奇

恠校注 127ト思ハ  
ル、所ノモノアリ例ヘハ體格堅強狀貌校注 128偉大ノ人ト雖モ空襲ニテ縦

横

校注 118) Anabasis

校注 119) Apartan, スバルタの

校注 120) English

校注 121) Southern Syria

校注 122) the systarchus

校注 123) 「揀」は選ぶという意味を持ち、「簡」あるいは「選」と同語あるいは類  
語として用いられる。ここでは選抜を示唆すると考えられる。

校注 124) the Gymnastic tests

校注 125) □は靚とみられる。原文ではcrack regiment

校注 126) (みだりに)

校注 127) 「恠」は「怪」に同じ、すなわち奇怪となる。

校注 128) 見目形

ニ跳躍シテ身ノ長ケニ達スレハ鎧装シテ其三分二ノ度ニ跳躍シ且自身

四三六

體重ノ三分一ニ均シキ重量ヲ二十碼ヤンド 校注 129一碼ハ曲尺三尺一分一厘ノ距  
離ニ擲テ加之

五十碼ノ距離ヨリ殆ンド人頭大ノ的ニ投鎗シテ十回中必ス四回以上  
ノ命中ヲ得其他弓校注 130大刀校注 131等ノ運用ニ於テ非凡ノ老練ヲ顯スニ非

サレハ  
其試験ニ應スル能ハサリシナリ

夫レ既ニ希臘國民カ身體ノ一般ニ校注 132吾人ヨリ強健ナリシヲ認識セハ  
其

爭鬪者ノ事業モ亦今日徒ラニ之ヲ遊事ト爲セル者ニ勝ルヘキハ見易  
キノ理ナリ希臘第九十七回オリンピアゲームノ得勝者ポリダマス校注 133

ハ  
嘗テ一舉ノ下ニ牝牛兒ノ項骨校注 134ヲ摧碎校注 135シ其後又野馬ノ後蹄ヲ固

ク握リ

其脚毛節ヲ扭振校注 136シ以テ其奔逸ヲ制シテ驕悍校注 137ノ性ヲ馴從セシメ

ント傳

校注 129) yard

校注 130) bow

校注 131) broadsword, 広刃の刀

校注 132) the average physical standard

校注 133) Polydamus, 人名をヤサ

校注 134) 「項」は首をあらわす。

校注 135) (さいさい)

校注 136) 「扭」(じゅう)「振」(れつ)どちらも「ねじる」という意味を持つ。

校注 137) (きょうかん)、おっついていて荒々しいこと

へ又之ト同時ノ壮士クロトナノ人ミロ<sup>校注138)</sup>ハ牝牛ヲ負フテ競走場<sup>校注139)</sup>ヲ運歩

シ且ツ自ラ平地ニ立チ右足ヲ舉テ纔カニ<sup>校注140)</sup>突岩ニ着スル時ハ四馬ノ双

カヲ以テ牽引スルモ巍然<sup>校注141)</sup>トシテ更ニ其位置ヲ變セシムル能ハストイ

ヘリ一日ピサゴラス<sup>校注142)</sup>教派ノ哲學者等古殿堂ノ中ニ集會セシ時穹窿<sup>校注143)</sup>屋

四三七

頂俄ニ壊裂シテ要石マサニ頭上ニ落下セントスミロ乃チ急ニ起テ双手ニ之ヲ支持シ先ツ衆ヲ出シ了リ<sup>校注144)</sup>而ル後身自ラ迅速ニ跳躍シテ危

ヲ脱シ以テ闔衆<sup>校注145)</sup>ノ性命ヲ九死ノ中ニ救フヲ得タリシイブスノ<sup>校注146)</sup>舞

劍者某

ハ一時技名ヲ以テ希臘全國ニ鳴リシカ聲譽漸ク四方ニ傳播シテ波斯<sup>校注147)</sup>

校注138) Miro of Crotona

校注139) race-course

校注140) (わずかに)

校注141) (ぎぜん)、高くそばだつさま

校注142) Pythagorean, ピタゴラスの

校注143) (きゅうりゅう)、弓形で中央が高くテントのようになっているさま

校注144) (おわり)

校注145) 「闔」(コウ)は「すべて」という意味を持つ。ここではすべての民衆を示してゐる。

校注146) Theban, テーベの

校注147) Persia, ペルシャ、「はし」と読むこともある。

帝デライアス<sup>校注148)</sup>ノ聽ニ達シ遂ニ聘セラレテ其夏期集會場ナルサーデス<sup>校注149)</sup>

ニ到リ乃チ翌日ヲ以テ不死隊ノ稱アル波斯近衛兵中ヨリ選拔セラレタル三勇士ト對戰較武<sup>校注150)</sup>シケルカ是時某ハ一世ノ勇力ヲ奮テ猛戰セシ

カハ龍驤虎嘯ノ勢アリテ三勇士ハ暫時ノ激闘ノ後チ共ニ却走<sup>校注151)</sup>シテ較

武場ノ外ニ逃避セントス是ニ於テデライアス王ハ急ニ止戰ノ命令ヲ下シ、カトモ這時遅シ那ノ時速シコノ驕傲<sup>校注152)</sup>不屈ノ三勇士ハ無

慚<sup>校注153)</sup>ニモ各々

死傷ヲ蒙リテ地ニ僵レタリ<sup>校注154)</sup>又紀元千七百五十八年英<sup>校注155)</sup>へ航渡セシチエロ

キー、インデヤン<sup>校注156)</sup>ト云ヘル疾走者<sup>校注157)</sup>ハ長サ英法一理ノ三分二ニ越エサル

競走場ニ在テハ如何ナル駿馬ト競走スルモ之ニ勝タサルコトナカリシ

四三八

校注148) Darius, ダレイオス、すなわちDareiosと考えられる。

校注149) Sardis, サルデイス

校注150) 「きょうぶ」あるいは「こうぶ」と読むと考えられるが判然としない。

校注151) (きやくそう)、走りかえること

校注152) (きょうこう)、おごりたかぶること

校注153) (むざん)、不憫

校注154) (たおれたり)

校注155) England

校注156) a Cherokee Indian, チェロキー一族

校注157) 原文ではDeerfootという人名が記されている。

トソ又ラベラ<sup>校注158)</sup> 府ノ知事ニコロマ、セロ<sup>校注159)</sup> カ在任ノ時其人民ハ嘗  
テサボ

ヤールドノ驚歎ス可キ拔藝ヲ觀覽セリト云フ蓋シサボヤールド<sup>校注160)</sup> ハ

該

府知事力眷愛<sup>校注161)</sup> ノ疾走者ト競走シテ數々勝ヲ得シ少年ニシテ毎ニ自  
負シテ

若シ競走ノ地ヲシテ崎嶇<sup>校注162)</sup> 傾斜シ細砂層ヲ成サシメハ縱令ヒ幾許  
里<sup>校注163)</sup> ア

リトモ善ク冀北ヲ空ウスルノ駿馬ト竝驅テ其先ヲ爭フ可シト云ヘリ又  
往者希臘羅馬軍隊中ノ疾駟者<sup>校注164)</sup> カ屢々教練セル健馬獵犬等ト競走セ  
シコト

ハヒンダール氏ノ詩歌中ニ驛馬四頭ノ疲レテ僵ルマデ併驅セシ羅德

島ノ一強者ヲ讚賞セルニテ明カナリ昔者希臘ノ脚夫ハ毎日英法八十

里<sup>マイル</sup>ヨリ九十里<sup>マイル</sup>ヲ步行セシト傳ヘ且マラソン<sup>校注165)</sup> 戰勝ノ翌夕其古報ヲ

本國

ニ通セントアセスン府ニ到着セシ急使ハ今度ルニ<sup>校注166)</sup> 一時間ニ英法

校注158) Ravenna, ラヴェンナ

校注159) Niccolo Marcello, 人名とみられる。

校注160) Savoyard, 人名とみられる。

校注161) (けんあい)、目をかけかわいがること

校注162) 山路の険しいこと

校注163) 「距離」に同じ。

校注164) 「疾駟」(しつゝ)、原文では the amateur runners of the Greeian and

Roman armies

校注165) Marathon

校注166) 「度」は長さをはかるという意味を持つ。

十四

里ノ比例ニテ疾走セルモノト爲サルヲ得スジラン、クリストマ  
ス<sup>校注167)</sup> 嘗

テ話次セサリ<sup>校注168)</sup> ノ一家長ノ事ニ及ヒ乃チ曰ク其人九十年餘飛脚ヲ  
家

業トセシカ其二十歳ニ業ヲ始メテ滿百歳ノ終ニ至ルマテ常ニ馳驅

四三九

疾走シ更ニ遅刻シテ人ノ信用ヲ失ヘルコトナク而シテ一時間モ會テ疾

病ニ罹リシコトナシト云ヘリ古人曰健康長命ハ運動ヨリ來ルト詢

ニ<sup>校注169)</sup> 我

ヲ誣ヒサルナリ<sup>校注170)</sup> ツラジヤン<sup>校注171)</sup> ノ第二人口表中ニハ人命ニ就テ甚

タ奇ナ

ル統計ヲ示セリ該表中ニ據レハ北部伊太利<sup>校注172)</sup>、希臘、大希臘<sup>校注173)</sup> 南

部伊國トシシリア島<sup>校注174)</sup> ヲ云

ノ人口二千八百萬ノ中百歳ノ者一萬千人、百二十歳ノ者七百五十人、百  
五十歳ノ者八十二人、百七十五歳ノ者二十人、二百六歳ノ者一人、  
二百八

校注167) Dion Chrysostomus, すなわちディオオン クリュソストモス、Dio

Chrysostomと考えられる。

校注168) Thessalian, テッサリア

校注169) (まいつじ)

校注170) 「誣」しる

校注171) Trajan

校注172) Northern Italy

校注173) Magna Grecia

校注174) Sicily

歳ノ者八人、二百十八歳ノ者一人アリ就中アルバニーノ一家<sup>校注175)</sup>ナル兄弟

四人ハ皆百十歳ノ壽ヲ超エリ之ニ反シ同表中小亞細亞埃及<sup>校注176)</sup>、パレスタ

イン<sup>校注177)</sup>ノ懶惰<sup>校注178)</sup>人民中ニハ百歳ノ者毎百萬人ニ一人ノ比例ノミ按スル<sup>校注179)</sup>ニ

斯ノ比例ハ當今ノ平均數ヨリ多ク上ラサルモノニシテ該時ニ於ル非

常ノ低位トス抑々希伯來<sup>ヘブライ</sup><sup>校注180)</sup>ノ聖詩作者カ人壽七十歳ト記セルヲ駁シテ<sup>校注181)</sup>人

命タ、二七十歳ニ豫定スヘカラスト爲ス説ハモーセス<sup>校注182)</sup>信者ノ其經ヲ固

守スルモノト雖モ恐ラクハ屈服セサルヲ得サル可シ且今日聰明ナル

#### 四四〇

生命學者等ノ決定スル所ニ據ルモ生活ノ法方<sup>校注183)</sup>サヘ不正ナラスンハ七

十ノ齡ハ本來ノ平均數ヨリ遙ニ下ニ位セル壽ト爲サルヘカラス故

ニ尚ホ身體ヲ健康ニスル規ニ合フ自然ノ法ヲ嚴密ニ履行セハ聖詩作者

校注175) Albanian family

校注176) エジプト

校注177) Palestine

校注178) (らんだ)、怠ること

校注179) (あんずる)、おさえるという意味

校注180) Hebrew

校注181) 反駁を意味する。

校注182) Mosaic

校注183) 方法に同じ

カ稱シテ最長ト爲ス七十ノ年齢ニ猶ホ三十或ハ四十ヲ加ヘンコト敢テ爲シ難キニ非スシテ古來ノ謬妄<sup>校注184)</sup>ヲ警醒<sup>校注185)</sup>スルニ足ラン然リト雖モ斯事タル

人類ノ全命數ニ係ル一大問題ナレハ未タ容易ニ判決シ能ハサルナリ蓋シ當今ノ情勢ニ於テ我等ノ生命ハ恰モ小説ノ半齣ニ止リ演戲ノ半幕ニ終リ或ハ樹木ノ未タ其果物ヲ結成セサルニ好季候ノ既ニ過去ス

ルト一般甚不足ノ姿ニ居レリ顧フニ未來永存ヲ希フテ吾人ノ只管<sup>ヒラウ</sup><sup>校注186)</sup>彼ノ靈魂不朽ノ説ニ心酔スルモノハ今世人壽ノ甚タ短促ナルヲ悲ンテ

其天性ノ自覺ヨリシテ之ヲ慕フニ由ルナラン而シテ其功ヲ加ヘタルハ

特ニセミチツク<sup>校注187)</sup>希臘ノ族長カ大概春秋百五十有餘回ノ永時ヲ經テ

猶健

全康福ヲ享有シ以テ満足靜穩ノ世ヲ終リシト云フヲ羨ム迂遠<sup>校注188)</sup>ノ志

念

#### 四四一

ニ原ケル<sup>校注189)</sup>コト明カナリ

抑々昔希臘人ノ毎ニ戰爭ニ勝利ヲ得ンハ體操術教育<sup>校注190)</sup>ノ之カ原因タリ

シコト今マタ疑ヲ容レス<sup>校注191)</sup>去レハジーン、ジャク、ルーソー<sup>校注192)</sup>氏

校注184) 「謬」と「妄」ともに、あやまり、うそという意味を持つ。

校注185) (けいせい)、人の迷いをさますこと

校注186) (ひたすら)、ただひとすじに

校注187) Senitic

校注188) (うえん)、役に立たないこと

校注189) 「たずねける」と読み、さかのぼって考えるということの意味する。

校注190) physical education

校注191) 「容れる」(いれる)、生じる

校注192) Jean Jacques Rousseau

ハ一國若シ

自任ス可キ二萬ノ人民アル時ハ敵國ノ侵襲敢テ恐ル、ニ足ラサルナ  
リト云ヘリ實ニ成<sup>ビリチー□イチユウ</sup>丁<sup>スツレングス</sup>德<sup>校注 193)</sup>ノ文字ハ當時<sup>校注 194)</sup>勢力ナル文字ヨリ  
出テ來レル者ニ

シテ恰モ<sup>アングロサクソン</sup>按各羅撒遜<sup>校注 195)</sup>人種ノ祖宗カ嘗テ常例ヲ循守シテ禮拜堂ニ賽  
ス

ル者ヲ寺領内ノ最善人ト稱譽セシト一轍ナリキ且ツ其諺ニ曰ク勢力  
ハ勇氣自任心ノ父ナリ而シテ勇氣ノ信任兵士ノ勢力相併合スル時ハ夫  
ノ蕞爾<sup>校注 196)</sup>タル共和希臘、瑞西<sup>校注 197)</sup>、サーカシア<sup>校注 198)</sup>、モンテニグ

ロ<sup>校注 199)</sup>ト雖モ能ク雲烟<sup>校注 200)</sup>天

地ヲ遮ルノ強敵ト抗シテ少モ其豪志ヲ屈セス以テ之ヲ却クル<sup>校注 201)</sup>ヲ得  
ヘ

シトセリ蓋シ斯等ノ諸小國民カ永年間其獨立ヲ保持セシハ全ク政治  
ノ然ラシムル所ニ非スシテ身體性質<sup>校注 202)</sup>ノ強壯剛毅ニ歸セサルヘカ  
ス

茲二三千年間ノ史乘ヲ鑒スルニ其事實ノ奇異ニモ一轍ニ出ルヲ發明

校注 193) ルビの□は解説不可、原文の virility as well virtue にあたる。

校注 194) strength

校注 195) Anglo-Saxon

校注 196) (やつこ) 小やこやち

校注 197) Swiss

校注 198) 原文では Circassians, Circassia となつてチュケルスと考えられる。

校注 199) 原文では Montenegris, Montenegro になられる。

校注 200) 「烟」は「煙」に同じ。

校注 201) (しりぞへる)

校注 202) physical constitutions

四四二

セリ蓋シ世界萬國ノ戦争ハ皆一トシテ北國民ノ南國ヲ征服スルニ  
因テ其局ヲ終ラサルモノアラス即チ阿弗利茄<sup>校注 203)</sup>ノ加達類人<sup>校注 204)</sup>ハ  
其南方ノ

ニユミデヤ國<sup>校注 205)</sup>ヲ征服セリト雖モ加達類國ハ復タ其北方ナル羅馬國  
ニ征滅

セラレ而シテ羅馬ハ東南西ノ諸國ヲ征服シテ強大ヲ極メシト雖モ遂  
ヒニ維士峨特<sup>ウキシグツツ</sup><sup>校注 206)</sup>ノ堅兵ノ爲メニ攻畧セラレ回々<sup>校注 207)</sup>ノ土耳其  
人<sup>校注 208)</sup>ハ其南方

同宗國ヲ壓服シ北方獨逸國人<sup>校注 209)</sup>ハ其南方同盟聯邦ヲ威伏シスカン  
ナ

ビヤ<sup>校注 210)</sup>ノ北人ハノルマンデー<sup>校注 211)</sup>ブリッタニー<sup>校注 212)</sup>並ニ英國<sup>校注 213)</sup>  
ヲ征服シハプスバー

校注 203) 原文の originally natives of Phoenicia, フェニキアをこのように翻訳して  
いる。

校注 204) the Carthaginians, カルタゴ人

校注 205) Numidian principalities, ヌミディアの

校注 206) the Visigoth, 西ゴート族

校注 207) イスラム教

校注 208) Turks, トルコ人

校注 209) the North-German Prussians

校注 210) Scandinavia, スカンディナヴィア

校注 211) Normandy

校注 212) Brittany, ブルターニー

校注 213) Great Britain

グ家<sup>校注 214)</sup> ハホーヘンゾレン家<sup>校注 215)</sup> ノ爲メニ斃サレ<sup>校注 216)</sup> 北部伊太利<sup>校注 217)</sup>  
ハ其南部半嶋ヲ

併吞<sup>校注 218)</sup> シ其他北人種ノ支那ニ入り秘魯<sup>校注 219)</sup> ニ及ホス等ヨリツロジヤ  
ン軍<sup>校注 220)</sup>、米

國聯邦ノ内戦ニ於ル盡ク此轍ノ外ニ出ツルモノナシ是ニ由テ之ヲ觀  
レハ凡ソ戦争ノ勝運ハ専ラ身體勢力<sup>校注 221)</sup> ニ歸セスシテ將タ<sup>校注 222)</sup> 何ニカ  
歸スヘ

キ夫レ羅馬ハ材智ノ及ハサルカ爲メニ維士峨特ニ征服セラレシニ非  
サルナリマリアセレサ<sup>校注 223)</sup>、フレデリックノ<sup>校注 224)</sup> 事實ハ二人ノ道德功  
績ノ薄キニ 四四三

因リ敗ヲ招キシニ非サルナリ是ニ於テカ我輩ハ益々萬國交戦ニ於テ身  
體強力ノ利益ヲ獨リ北方戰士ノ占ムヘキヲ信セリ蓋シ北地ハ氣候嚴  
寒地質饒确<sup>校注 225)</sup> ナルカ故ニ其住民ノ各生命ヲ保續セン爲メニハ自ラ非  
常

ノ艱難勞苦ヲ以テ此等自然ノ勢力ニ克タサルヲ得ス是レ其身體ノ愈々

校注 214) the house of Hapsburg

校注 215) the house of Hohenzollern, ホーエンソオレルン家

校注 216) (たおざれ)

校注 217) North-Italian kingdom

校注 218) (くこゝへ)

校注 219) Peru, 「秘露」

校注 220) 原文では the Trojan War, トロイ戦争

校注 221) bodily strength

校注 222) (はた)

校注 223) Maria Theresa

校注 224) Frederick's

校注 225) (つうかく)、石の多い瘦せ地

強壯堅固ニシテ攻戦ニ益々剛猛ナル所以ナリ然リト雖モ北國人種カ其  
氣候酷烈ヨリ得ル所ノ斯ノ利益ハ偶然ノミ世界盡ク之ヲ恃ムヘカラ  
ス然レハ今世界國民ニ望ム所ハ是ヨリ愈々體操術ノ教育<sup>校注 226)</sup> ヲ擴充シ  
猶一

層親切快美ノ法ヲ設テ其慶ヲ保有ス可キナリ夫ノ沈落人種ト稱セラ  
ル、歐米南部ノ諸國民<sup>校注 227)</sup> ハ豈其不智蒙昧<sup>校注 228)</sup> ナルニ因テ然ルナラン  
ヤシモ

ンポリバー<sup>校注 229)</sup> 氏嘗テ僧院ノ施給ヲ譏刺<sup>校注 230)</sup> シテ曰汝許多<sup>校注 231)</sup> ノ厓  
弱<sup>校注 232)</sup> ナル神聖ヲ

専心祈年センヨリハ寧ロ軍神ニ請願スルノ愈レルニ若カスト其自ラ  
努ムヘキヲ謂フナリボイロー<sup>校注 233)</sup> ハ介直<sup>校注 234)</sup> ノ名アル人ナルガ嘗テ其  
國民ノ

懦弱ナルヲ嘲誚シテ曰嗚呼體操<sup>校注 235)</sup> ノ一タヒ頽廢<sup>校注 236)</sup> シテ人ノ怠慢奢  
侈ニ流 四四四

レテヨリ昔者<sup>校注 237)</sup> 彫像ノ模範トモ仰カレシ希臘神威ノ形貌ハ杳トシテ校

校注 226) physical education

校注 227) the nations of Southern Europe and South America

校注 228) (もうまろ)、知識が開けず、物事の道理にくらゐ

校注 229) Simon Bolivar

校注 230) (きこ)、非難すること

校注 231) 「数多」に同じ

校注 232) 校注 37 参照

校注 233) Boileau

校注 234) 原文では honest

校注 235) physical exercise

校注 236) 退廢

校注 237) (むかし)

注238) 殆

ト其影ヲ留メス實ニ吾人ハ廢人ノ子孫トナレリ主宰ノ眞豫今安クニ  
カ在ルヤト

夫レ戸外露天ノ運動<sup>校注239)</sup>ハ大ニ自然ノ威貌美質ヲ發生スルコト即ヘハ  
ニユウ

ジーランド<sup>校注240)</sup>ノ戰士ハ倫敦府ノ扮粧者<sup>校注241)</sup>ヨリ自然ノ壮容ヲ具シ北  
米銅色

種<sup>校注242)</sup>サーカシヤン<sup>校注243)</sup>、ダヒスタン<sup>校注244)</sup>等ノ人民ニモ自然威貌ヲ  
表スルコト高加索<sup>校注245)</sup>

白色人種ト殆ント一般<sup>校注246)</sup>ナルヲ見テ知ルヘシ然リト雖モ此等ノ黄色  
或

ハテユラニヤン種<sup>校注247)</sup>タル未開人ハ之ヲ古ニ在テ白色種ノ祖先タル體  
格修

練ノ人ト相比セハ其狀貌固ヨリ遠ク及ハサランコト今疑ヲ容レス者  
老<sup>校注248)</sup>

校注238) (ちうとしつ)、暗いさき

校注239) open-air exercise

校注240) New Zealand

校注241) 原文は a cockney dandy, ロンドンなまりの子

校注242) the North American red-skins

校注243) Circassia

校注244) 原文は Daghestan, Dagestan すなわちダゲスタン

校注245) Caucasian

校注246) 同様であるという意味

校注247) Sambo Africanus

校注248) (めふつ)、60〜70歳の老人

モンテイン<sup>校注249)</sup>氏夙ニコ、ニ見ル所アリヲ曰最モ偉嚴ナル人物ハ獵者  
ニ

在テ剃髮者ニ非サルナリト吾人熟々世上ヲ通觀スルニ實ニ清眼準鼻ナ  
ル人物ハ巴黎府玩球室<sup>校注250)</sup>ノ粧粉子<sup>校注251)</sup>中ニ甚タ稀レニシテピリニー  
ス山<sup>校注252)</sup>ノ

伐木者中ニ多キヲ認メリモンテイン氏信ニ我輩ヲ誑カサ、ル<sup>校注253)</sup>ナリ

四四五

夫レ既ニ戸外勞動ハ身體ノ矮醜ヲ醫スルニ頗ル實効アル良藥ナリト  
雖モ特ニ偉功ヲ望マンニハ健旺ナル勞動ノ戸外生活ニ勝レルコト著ル  
キヲ見ルスカンデナビア<sup>校注254)</sup>、スコットランド<sup>校注255)</sup>北部、獨逸國<sup>校注256)</sup>  
等ノ田舎人民ハ

常ニ戸内ニ於テ勞動セルニ因リ體格多クハ強健ニシテ實ニ他ノ模範タ  
リ之ニ反シ伊太利、西班牙<sup>校注257)</sup>人民ノ如キハ戸外ニ在ルモ緩慢游惰ニ  
光陰

ヲ消費セルカ故ニ大抵虛弱ニシテ狀貌ノ累々タルヲ免レス抑々身體運  
動<sup>校注258)</sup>ハ唯リ此レノミナラス大ニ道德上ニ功アリ然ルニ我社會ノ改教

校注249) Montaigne

校注250) a parisian ballroom

校注251) exquisites, しゃれ者

校注252) the Pyrenees, ピレネー山脈

校注253) (たざらかやうせ)

校注254) Scandinavia

校注255) Scotland

校注256) Northern Germany

校注257) Spain

校注258) athletic exercises



者<sup>校注 259)</sup>

等カ久クコ、ニ見ル所ナカリシハ信ニ奇ム<sup>校注 260)</sup>ヘシトス蓋シ強壯運動ノ

人心ヲ娛樂セシムルハ固ヨリ論セス第一ニ其血氣勢力ヲ節度開泄シ濫リニ淫逸游蕩<sup>校注 261)</sup>ノ惡意ヲシテ人間ノ品行上ニ威ヲ逞ウセシメサルモ

ノナリ且ツ夫レ運動ニ發生スル勇敢ナル激勵心即チ競遊爭勝ノ熱心<sup>校注 262)</sup>ハ志氣ヲ尚フノ風ヲ養成スル必用ノ善路ニシテ實ニ斯ノ志氣ヲ尚フ

ノ風コソ人間天性ノ正直ナル面目<sup>校注 263)</sup>トモ云フヘケレ故ニコレヲ欠クハ 四四六

人間天質ノ療ス<sup>校注 264)</sup>ヘカラサルモノトス蓋シ精神ニ活潑ノ志氣ヲ要スヘ

キハ身體<sup>校注 265)</sup>ニ運動<sup>校注 266)</sup>ヲ要スヘキト一般<sup>校注 267)</sup>ナルニ因テ我輩此風ヲ養生セハ自

ラ其天性ヲ抑制セント試ムルモ其位既ニ定ツテ敢テ消滅セラレス然ルニ若シ強テ其善路ヲ妨碍<sup>校注 268)</sup>セハ遂ニ變シテ不善路ニ化學上ノ反應

校注 259) social reformers

校注 260) (あやしむ)

校注 261) (いんいつゆうとう)、「淫逸」は遊興にふけること

校注 262) enthusiasm of athletic contests

校注 263) ありのままの様子

校注 264) (いやす)

校注 265) the body

校注 266) exercise

校注 267) 校注 246) 参照

校注 268) 妨害

ヲ

呈センボアハーフ<sup>校注 269)</sup>氏曰ク身内運動機關ハ其永時ノ寢休ニ遇フ間ハ遂

ニ之ニ壓制セラレテ萎靡用ヲ爲サスト

夫レ饑饉ノ際ニ支那、サイアム國<sup>校注 270)</sup>ノ貧民カ其兒女ノ哀號<sup>校注 271)</sup>ヲ聞クニ忍ヒ

ストシテ常ニ鴉片<sup>校注 272)</sup>ヲ喫シテ<sup>校注 273)</sup>沈醉其苦ヲ忘ルト嗚呼我カ百萬同胞ノ市

民ハ何ソ其欲望シテ得サル志念ヲ其身ヲ健康ニスル體操ノ良法ニ由リテ慰解スルヲ求メス却テ其身ヲ毒スルアルコールニ藉テ<sup>校注 274)</sup>以テ一時

ヲ満足セシメントスルヤ

古希臘土人<sup>校注 275)</sup>ハ其日々ノ職業ヲ終レハ輒チ必ス體操場<sup>校注 276)</sup>ニ赴キキ羅馬人モ

亦競爭戲場<sup>校注 277)</sup>ニ從事セシコトナルニ今日歐米諸國人民<sup>校注 278)</sup>等ハ却テ酒肆<sup>校注 279)</sup>割烹 四四七

校注 269) 校注 109) 参照

校注 270) Siam

校注 271) (あいつう)

校注 272) opium, アヘン (「阿片」)

校注 273) 飲む

校注 274) (かりて)

校注 275) mechanic, 職工

校注 276) the gymnasium

校注 277) amphitheatre, 円形演技場

校注 278) the modern European and American

校注 279) 居酒屋のバー

店ニ流連<sup>校注 280)</sup>シ其終日ノ勞作ノ苦ヲ散セントス是レ何レモ按樂快愉ヲ得

ントスルノ方ナレトモ其結果ニ於テハ信ニ宵壤<sup>校注 281)</sup>ノ異アリトス

抑々斯等ノ方法ニ就キ何レカ最モ良善ナルカハ別ニ辨ヲ俟タスシテ明カナリ然リト雖モ獨リ羅馬劇場<sup>校注 282)</sup>ノ殘酷ナル殺戮ニ至テハ之ヲ今日酒

店ノ心身ヲ損害スル毒ト比シテ何レカ是非ナルノ點ニ在テハ亦一疑問ニ付セサルヘカラス然ルニ好酒家ノ酒毒ヲ知りナカラ自ラ其慾ヲ制スルコト能ハスシテ遂ニ貴重ノ生命ヲ失ヘル者ハ實ニ少カラ

スト爲ス然ル所以ヲ求ムルニ其下等人民ニ在テハ夫ノ六日間粗食水ヲ飲テ勞苦シ第七日ニ至テ愉快歡樂スルノ風ヲ守ル能ハスシテ夫ノ樹蔭ニ眠リ拜神ノミヲ以テ満足スル如キ心智ノ純粹ナル快樂ハ自ラ

解セサルニ由レリ蓋シ精神ノ培養ヲ欠ク此等下等人民ニ在テハ固ヨリ貨財ノ蓄ナク隨テ富人ノ爲ス如キ保身ノ眞樂ヲ得ル機會ニ遭ハサルノミ信ニ悲ムベシトス

#### 四四八

人或ハ曰ク我等祖先カ其休日ニ於テ樂ミト爲セルハタ、殘酷ナル闘牛戲遊等ナリシカ此弊今日殆ト消滅シ之ニ代テ吾人ノ休日ヲ娛シマシムル<sup>校注 283)</sup>モノハ幸ニ日曜學校<sup>校注 284)</sup>、教書讀會所<sup>校注 285)</sup>等ナリト嗚呼

何ソ誤レルヤ古

校注 280) (りゅうれん)

校注 281) 「膏」となっているが、「膏」(しょう)と考えられる。したがって、しやうじょう。天と地という意味。

校注 282) the Roman arena

校注 283) (たのしみむる)

校注 284) Sunday-schools

校注 285) reading-rooms of the Young Men's Christian Association

人何ソ此等ノ游戲ヲ以テ光陰ヲ無益ニセン夫レ今日我輩ノ尊崇シテ泰斗視<sup>校注 286)</sup>スル所ノ人ト雖モ猶發明スル能ハサルノ正理ハ希臘哲人夙ニ

之ヲ覺知セリ即チ曰ク身體精神ノ眞ノ健全<sup>校注 287)</sup>ハ徒ラニ得ラル可キモノニアラス然シナカラ是レ思慮動作意志勢力ト相伴テ常ニ存スルモノ

ナリト抑々古代希臘人ハ貧富ノ別ナク皆専ラ日々體操法式ニ因リ身體ヲ改良スルヲ務メ永年生命ノ安全ナルヲ祝喜セリ斯ノ慣習ニ因テ希臘人ハ實ニ方今我輩カ一生ニ爲シ能ハサル所ノ多クノ事業ヲ遂ケ猶

且裕餘ノ時間ヲ有セリ  
方今國內一般ニ打球遊<sup>クリケット 校注 288)</sup>、翫球遊<sup>ベイスボール 校注 289)</sup>、射的<sup>校注 290)</sup>等ノ事ニ熟練ヲ要スルノ情況ハ却

テ精神ニ勢力ヲ付スル所ノ競馬<sup>校注 291)</sup>、闘鷄<sup>校注 292)</sup>等ヲ習フヨリモ多シ即チ人民性  
々之レカ爲メニ巨萬ノ財ヲ費スヲ吝マサル<sup>校注 293)</sup>ナリ是レ吾人ノ固ヨリ

#### 四四九

眇

校注 286) (たいとこ)

校注 287) the highest well-being of the body and of the soul

校注 288) cricket

校注 289) base-ball

校注 290) target-shooting

校注 291) horse-races

校注 292) cock-fighting

校注 293) (おごり)

視<sup>校注 294)</sup> ス可ラサルモノト雖モ然レトモ今此逸興<sup>校注 295)</sup> 翫球遊等<sup>校注 296)</sup> ヲ  
以テ往者ノヲリ

ンピックゲーム爭勝遊<sup>校注 297)</sup> ノ熱心ト比較セハ何レカ優何レカ劣トスル  
蓋

シ辨ヲ須タサルモノアラン抑々東西億萬ノ諸國民カ一場ニ齎集<sup>校注 298)</sup> シ  
天地

ヲ震動スルノ聲音ヲ以テ得勝者ノ親戚朋友ノ面前ニ百歡千呼スル至  
大ノ名譽ヲ得ント熱望スル人間ニシテ豈酒店ニ沈<sup>校注 299)</sup> シテ僅ニ口腹

ニ  
役セラル<sup>校注 300)</sup>、如キ卑劣ノ情ヲ懷ク<sup>校注 301)</sup> モノアランヤ嗚呼吾人ハ太古

希臘<sup>校注 302)</sup> 曙光<sup>校注 303)</sup> ヨリ得タル道理幸福ハ中世ノ曇蝕<sup>校注 304)</sup> ニ因テ盡ク遮

蔽セラレタ  
ルカ然ラスンハ其身體萎靡ノ今日ヲ來スハ抑々何故ソ吾人ノ身體ハ靈

校注 294) (びょうし)、見逃す

校注 295) (いっきょう)、世俗をはなれた風流の趣

校注 296) base-ball match

校注 297) the Olympic race

校注 298) (さんしゅう)

校注 299) 偏にあたる部分に「西」、旁にあたる部分に「面」と読めるが判然とし  
ない。

校注 300) 「口腹」は飲食、「役す」は原文ではconsumeおよびuse

校注 301) (いたたく)

校注 302) (かつかく)、さかなさま

校注 303) (しょうこう)、明るいきざし

校注 304) (どんしよく)

神ノ創造セシ者タルヲ忘却セルカ何ソ永ク開散不用ノ地ニ困厄<sup>校注 305)</sup> 閉  
鎖

シテ空ク衰弱ニ陥ルヲ見敢テ式牛ヲ衝クノ氣象ヲ發揚セサルヤ<sup>校注 306)</sup> 悲  
カナ

夫レ方今ノ教育ハ固ヨリ宗教ニ泥マス<sup>校注 307)</sup> トハ雖モ其學制<sup>校注 308)</sup> ハタ、  
二自然

ニ隨ハサルノミナラス却テ自然ニ逆フ所ノ不良ノ法ト爲ス即チ子女  
四五〇

ノ健全ナル生來ノ天性ヲ抑制スルヲ是レ務メテ益々人民ヲ不幸ニ陥ラ  
シメ人民モ亦恬トシテ<sup>校注 309)</sup> 此レニ按ンシ戸外ニ神授ノ清明ナル大氣在

ル  
ヲ知ラサルニ至ルトハ實ニ歎スヘキニ非スヤ然リト雖猶將來ニ望ミ

ナキニ非サルナリ蓋シ我太古祖先ノ自然ヲ愛スル神靈ハ早晚必ス其  
確理ヲ吾人ニ付與シテ一世ヲ開發セントスはニ於テカ希伯來天ノ懶

惰儉安<sup>校注 310)</sup> ナル英國ハ更ニ安各羅撒遜時ノ健康活發ナル樂園ニ變遷ス  
ヘ

校注 305) (こんやく)、苦しむ・災難

校注 306) 原文では、バスチーユ監獄が崩壊したが、囚人たちは監房を離れたがら  
ないと記されている。原文のこの箇所を意識したものと思われる、長期間  
閉鎖された場所について、身体が衰えているにもかかわらず、氣概が生じ  
ないと解釈できる。

校注 307) (なすまず)

校注 308) education system

校注 309) (てんとして)、頓着しない

校注 310) (とうあん)、一時しのぎ

シ現ニ獨逸國ノ如キハ永ク渴望セシ晴晨<sup>校注 311)</sup>ノ薄光ヲ觀望スルノ良期ニ  
近ツキシモノト謂ヘシ余ハ實ニ將來必ス身體上ニ一大改良<sup>校注 312)</sup>ヲ來スア  
ルヲ豫メ信スルナリ因テ茲ニ其所見ヲ吐露スルコト是ノ如シ

四五

校注 311) 「晨」は朝、明日という意味を持つ。せいしんと読むと考えられ、晴れ  
やかな将来・未来を意味すると考えられる。

校注 312) a physical reformation

〔付記〕 本稿は科学研究費助成事業（基盤研究（C））課題番号  
二四五〇〇七〇三（平成二五年度分）による研究の一部である。